

※委員からいただいた御意見を、なるべく原文に近い形でまとめたもの。

分類	御意見
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期から青年期までの居場所や経済的問題、共働きなど、子育て環境に関連するさまざまな課題が存在する中、様々な立場の委員から意見を聞きたい。 ・ ライフステージ別で子ども計画を立てるという事務局からの話があったが、すべてつながっており、生涯発達という観点で考えることを重視することが重要。 ・ 「地域ガチャ」にならないよう、地域の格差をなくし、全ての子どもたちに適切な支援を提供するために意見収集が重要。 ・ 数値目標だけでなく、目標の中身も考慮してモニタリングを行うべき。 ・ 子ども計画において、子どもたちからの意見を聴取するためにアンケート調査やSNSプラットフォーム、対面のグループワークが有効である。徳島の未来をつくるために、子どもたちの意見をうまく取り入れていきたい。 ・ 不登校やいじめの情報は多いが、議会には反映されていない。子どもの声を計画に反映する仕組みが重要。
基本目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどものウェルビーイングを理念とする場合、子ども自身の認識や幸福感を尊重することが重要。 ・ こどもの意見を聴取する際には、アドボカシー（代弁者）を通じて子どもたちの声を届ける機会も必要。 ・ 児童養護施設では24時間365日、児童相談所と里親さんと連携して子どもに対応しているが、こどもの声に耳を傾けることが重要。
基本目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山間部（祖谷、山城）ではこどもの数が少なく、高齢者が多数である。こどもが少なくても、高齢者とこどもが交流できる場としてこども食堂の重要性は高い。また市内と比べ、こどもの習い事や居場所が少ないことがある。市内と県西部の違いを反映した活動が必要。 ・ 共働きや核家族化により、子どもたちが親や地域の大人に気軽に話せる場が少なくなっている。安心して気軽に話せる居場所が必要。 ・ 徳島の子どもたちは家庭環境によって機会の格差があると感じているので、解消したい。 ・ 生活が大変な家庭の子どもたちが一人で過ごす状況を見て、支援の必要性を実感しているため、子どもたちが安全に多様な体験をできるようなサポートを準備していきたい。

分類	御意見
基本目標3	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校のこどもが年々増加しているが、居場所が不足しているのが課題と感じている。不登校者支援の強化を会議で推進したい。 ・難しいヤングケアラーの問題にも取り組む必要性があるなど、会議での意見交換を通じて支援策を進めたい。 ・不登校支援の背景にはひとり親、生活困窮、ヤングケアラーなど複雑な問題が存在しており、自治体側も部署を越えた支援計画が重要となる。 ・行政からの給付金、奨学金などの制度を広めていただきたい。
基本目標4	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭養護を推進し、こどもたちが家庭で育つ権利を増やすべきである。 ・こどもたちの自立には家庭での育ち方が重要であり、里親がその役割を果たしている。少子化が進む中で、虐待が増加していることに対して、家庭での子育ての学習が必要。
基本目標5	<ul style="list-style-type: none"> ・プレコンセプションケアの視点から、こどもを産む前から支援できるようにしたい。 ・核家族化やシングル家庭の増加で、特に妊娠中や低月齢のこどもを持つ親へのサポートが欠如している。
基本目標6	<ul style="list-style-type: none"> ・ママ友・パパ友ができたという声がある一方、一人の人間として受け入れられる居場所が不足している。 ・こどもへのサポートは広がっているが、子育て支援の根本が足りない。地域には多くのサポートがあるが、必要な時に情報が届かない。サポートが点と点で結ばれず、面になっていない。 ・各機関が連携して情報を共有し、支援を対象者に届かせることが必要。 ・育児・介護休業法について、男性の育児休業取得が柔軟な制度に近づいていることが重要である。 ・こどもへの支援の第一歩は保護者への支援であり、全国的に共通する課題として認識されている。 ・虐待は増加しているが、潜在的な虐待も増えていると感じている。こどもたちの発言を子育て支援に生かすことで親子の愛着関係を強化できると考えている。